



横浜市立小田中学校
創立20周年記念誌

小田の丘 2012





これまでも これからも

創立 20 周年記念事業
実行委員会 委員長
現 P T A 会長
菅沼佳代子



小田中学校が、創立 20 周年を迎られましたこと、心よりお祝い申し上げます。開校当時から今日に至るまで御尽力いただきました皆様に、深く感謝致します。

15 年程前の話になりますが、主人の転勤で引っ越し先を考えていた私達には、近い将来我が子が通う「学校」は、大変気になるところでした。数ヶ所の地域に足を運んだのですが、この地域の方は口を揃えて「小田中学校は素晴らしい学校です。」とおっしゃいました。おっしゃる通り、丘の上に輝く真っ白な校舎。中学生らしい制服もきちんと着て登下校する生徒達の様子から、のびのびと、愛情深く、しかもきちんと教育をしてくださる学校と、それを誇りに思い協力をし、支えている地域の方々の姿勢が伝わってきました。私達家族とこの地域とをつないだ小田の丘の白い学校。創立 20 周年を、この学校の P T A 会長という立場で迎えられましたことを幸せに感じると同時に、不思議な気持ちにもなります。

小田中学校の素晴らしいことは、先生方と家庭と地域が、手を取り合って子ども達を育んでいることではないでしょうか。子ども達が安心してのびのびと学校生活を送ることができるのは、その恵まれた環境と、愛情深い方々のお力によるものだと感じています。中学校の 3 年間は、それまで共に学び成長してきた仲間との最後の 3 年間。そして、地域の外へと巣立つ前の大切な準備の時間です。それが違った世界へと一步前に進む力を持つ、そんな中学生を育てる学校であって欲しいと思います。小田中学校の、人と人との和を大切にする校風を大切に守り、これからも、しっかりと前を向いて生きている姿を、子ども達に示していくことが、私達大人の役目であると思います。

私自身もこれまでとは違った立場になっても、これからも変わらずに、小田の丘から明るい声が響き続けることを応援していきたいと思っています。

20 歳になった小田中学校に

学校長
藤代 憲一



石川啄木は『一握の砂』の中で次の歌を詠んでいます。

その昔 小学校の 桧屋根に
我が投げし鞠 いかになりけん

小学校というのは今の中学校です。小田中学校の屋上にも鞠ではなく風雨にさらされたボールが何個か上がっていました。何年前に上がったボールでしょう。桼屋根に投げし我是今いくつになっているのでしょうか。

小田中学校は創立 20 周年を迎えました。人で言ったら 20 歳になったということです。成人したということです。「成人」を逆から読むと「人と成る」になります。これは単純に 20 年過ぎたとは違います。立派な人になる、人らしい人に成るということです。学校で言えば、立派な学校になる、学校らしい学校になるということです。そこには、ただ時が過ぎるのを待つのではなく、横浜市立のひとつの中学校としてしっかり根を張るまでの先人・先輩諸氏の染み入るような努力があったのです。この 20 年間で皆様に学校として育てていただきましたから、これからは、今まで以上の学校として、さらに成長させていかなければなりません。

小田中学校がどちらの方向に向かって伸びていくか？

中国の孔子にはたくさんの弟子がいますが、そのうちの一人曾子は、理解は少し遅いが、とっても純真で、師の教えを素直に受け継ぎ何事に対しても一生懸命にやつていく人だったといいます。小田中学校においての師は、学校を支えてくれる先輩諸氏、地域・保護者の皆様、生徒諸君と考えています。師の教えを重いものととらえ、眞の「成人」になれるよう肅々と努力し、地力のある学校にしたいと思っています。



22世紀につながる学校へ

初代校長

武山 俊彦



平成4年(1992)4月に開校した小田中学校は本年で“成人”を迎えました。

今、生徒達は開校時と同じく積極的に学習や諸活動に取り組んでいると聞いております。

それは当然のことかも知れませんが、開校時から地域、保護者の皆様、教職員のご支援、ご努力があったからではないでしょうか。

本来ならそういう方がたすべてのお名前を記すべきなですが紙幅の関係でそれもできませんので、とくに多田五郎様(故人)のことについて述べさせていただきます。

多田様は保護者のおひとりであり開校当初から物心両面で支援を賜りました。そのひとつが校歌碑のご寄付でした。(300万円のご寄付は校歌碑と校歌作曲料に使わせていただきました。)

校歌碑は22世紀につながる小田中学校の象徴として生徒は勿論皆様に愛されてほしいと思っております。

小田中学校は横浜の新しい学校のひな型のひとつとして開校し、校舎内にさまざまなアイデアが盛りこまれていました。代表的なもののひとつがガス暖房機の設置でした。テストケースとして設置されたのですが、なぜか市内唯一のガス暖房設置校となっています。

開校当初から「生徒が主役」を合言葉に取り組んできましたが、これからもこの姿勢を基調に取り組んでほしいものです。22世紀までにはまだ時間はありますが、小田中学校が学習面、諸活動を通じて地域の中核的存在となりつつ22世紀を迎えることを期待しております。

祝・創立20周年記念

学校・家庭・地域連携事業
会長

夏目 重雄



横浜市立小田中学校が創立20周年を迎えたことは、地域の自治会、町内会一同心よりお祝い申し上げます。日本一の富士の嶺を望み横浜港が一望出来る小田の丘に平成4年春に創立されました。小田中学校の歩みは、学校を支え生徒指導に当られた歴代の教職員の皆様と共に歩んでこられた保

護者会のご支援の賜ものです。小田中学校には平成4年6月に学校創立と同時に「学校・家庭・地域」連携事業の実行委員会が設立されました。

略称「学・家・地・連」です。

重点事業として第一「学校を中心とした事業」、第二「問題行動防止のための事業」、第三「健全育成のための事業」等を活動の柱として諸先輩が取組んでまいりました。今後も実行委員会活動を進めてまいります。小田中学校の生徒会の皆様は連携事業の諸行事に果敢に取り組まれます。特に地域主催の運動会、夏祭り、防犯パトロール等に積極的に参加されるボランティア活動は高く評価をいただいています。

今後も更なる学業に、スポーツ、ボランティア活動に励んでいただき、次の創立30年50年をめざした礎の活動をお祈り申し上げます。

20周年を迎えて

第20期生徒会長

小島 光平



こんにちは！生徒会長の小島光平です。小田中学校は今年で創立20周年を迎えた。とはいっても僕は今、14歳なので20年前のことはよく分かりません。しかし昔も今も変わらないものがあります。それは教室から見える景色です。小田中は丘の上に建っているので、教室からは海やたくさんの緑が見えます。これは小田中学校の校歌にもなっていて「海からの青い風」や「目に染みる若葉の緑」など風景を歌詞で表しており、とても特徴的です。

次に今の小田中学校の良い所について述べると、それは団結力だと思います。今年の運動会もとても盛り上がりしました。クラスメイトが一生懸命走っている姿を見て「頑張れー！」と応援したり、同じ色の選手に声を掛けたりする人がたくさんいました。こんな風に思いやりの気持ちを持っているからこそ協力して運動会ができたのだと思います。

また、20周年を迎えるにあたって、先輩方には本当に感謝をしています。生徒会活動においても、部活動においても、学校行事においても、先輩方が手本となるような活動や実績を築きあげてくださったので、それが今に活かされているのだと思います。今、生徒会ではあいさつ運動を中心に学年を越えて一つになれるような学校を目指しています。そして後輩のみんなにも仲間を大切に中学校生活をEnjoyして欲しいと思います。創立20周年を記念して、大きく強くたくましくStepしていくようにみんなで頑張りましょう。



小田の丘から

～校名に寄せて～

平成4年4月1日、横浜市の中で144番目に開校した小田中学校は、富岡の丘陵地帯にあり、付近一帯は起伏の変化に富んでいて、木々も多く、また、晴れた日には、遠く丹沢の山々と重なるように美しい富士山が眺められます。風光明媚な土地でもあり、古くは鎌倉から明治の頃、多くの政治、経済、文化にゆかりのある人達の憩いの場所として広く利用されてきましたといわれています。しかし、時代の流れとともに、住宅地としての人口が増加の一途をたどり、多くの人々が居を構えることになりました。

小田の名称は、昔、富岡町字小田と称していたことから、字名を採用しました。すでに、平成3年度に開校した小田小学校と隣接しているため、小田中学校と称することは、ごく自然ともいえるので、この校名となりました。

校章の由来

この校章は、小田中の「小」と「中」をとってデザイン化されました。

「小」は未来にはばたく鳥をイメージしてつくられたものです。



制定にあたっては、校章制定委員会において、地域、職員、生徒より公募した作品の中から、笹倉恵介さん（当時2年生）の作品を採用決定しました。

学校沿革

平成2年 小田方面校開校準備開始	平成14年 学校週5日制完全実施 新教育課程実施
4年 創立 開校式	「まちの先生」学習開始
生徒会設立説明会	15年 2学期制移行
PTA創立総会	学校創立10周年記念式典
運動会、文化祭実施	20年 「まちの先生」学習終了 小中一貫教育実践開始
生徒会設立	21年 文化祭を学校祭音楽の部に変更実施 2年生、職場体験学習開始
5年 校章制定	24年 3学期制移行 新教育課程実施
校歌発表会 校歌制定	学校創立20周年記念式典
6年 校歌碑完成	
第1回卒業証書授与式	
9年 自動販売機稼動	
13年 総合的な学習の時間開始	



教育目標

個性が發揮できる学校生活

自ら学び、自分らしさを發揮し、生きる喜びを実感できる生徒を育てます。（知）

誰もが尊重される学校生活

自らの心と体を健やかに育み、互いの立場を尊重しあえる生徒を育てます。（徳・体）

地域と共につくる学校生活

地域との交流を積極的に進め、地域の一員としての自覚を育てます。（公・開）

年間行事

4月 April

- 1学期始業式
- 入学式
- 対面式
- 新入生オリエンテーション
- 部活動紹介



▲ 入学式

▲ 運動会

▲ 校外学習



▲ 七夕まつり

▲ スポーツ交流会

▲ 音楽祭

▲ 学校祭・展示の部

10月 October

- 児童生徒交流日
- 音楽祭
- 学校祭・展示の部
- 進路面談（3年）

11月 November

- 留学生出前授業（1年）
- 職場体験学習（2年）
- 生徒会役員選挙
- 進路説明会
- 第3回定期テスト

12月 December

- 第2回学校保健委員会
- 個人面談
- 2学期終業式

部活動



▲ 野球部

▲ サッカー部

▲ 陸上競技部



▲ 男子ソフトテニス部

▲ 女子ソフトテニス部

▲ 女子バレーボール部

▲ 卓球部

7月 July

高校の先生の話を聞く会（3年）
生徒会七夕まつり
防犯教室
個人面談
1学期終業式



▲自然教室



▲修学旅行



▲生徒総会

8月 August

スポーツ交流会
2学期始業式

第2回定期テスト
個別支援学級合同宿泊
個別支援学級合同体育祭
第1回学校保健委員会



▲留学生出前授業



▲職場体験学習



▲百人一首大会



▲卒業証書授与式

1月 January

3学期始業式
書初め展
高校の先生の話を聞く会（2年）
私立高等学校推薦入試

2月 February

私立高等学校一般入試
公立高等学校共通選抜
学年末テスト
百人一首大会
卒業遠足（3年）
新入生説明会

3月 March

卒業証書授与式
公立高等学校分割選抜
修了式



▲男子バスケットボール部



▲女子バスケットボール部



▲剣道部



▲吹奏楽部



▲美術部



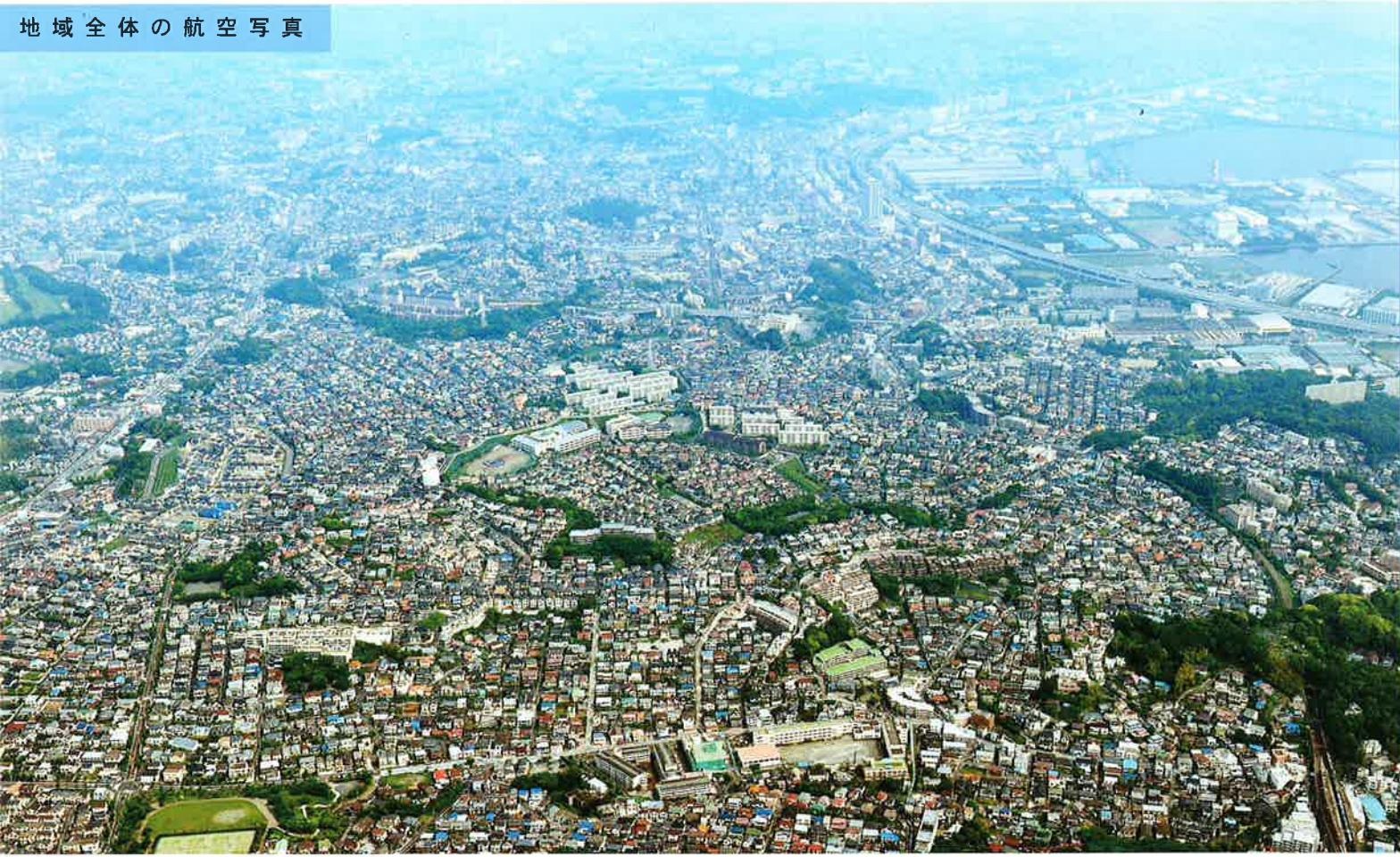
▲テクノ部



▲茶道部



地域全体の航空写真



校舎と人文字の航空写真



横浜市立小田中学校校歌

作詞 武山 俊彦
作曲 岩河 三郎

日がのぼる 日がのぼる

光る海 輝く校舎

足どり軽く 今 心あらたに

学び きたえ 語り 歌う

海からの青い風

沖を行く白い船

目に染みる 若葉のみどり

陰をつくる 泰山木よ

明るい風 からだいっぱいに受けて

若さあふれる

力みなぎる

七色の歌声が 空にひびく

なつかしい 小田の丘から

空にひびく



校歌の由来

儀式の時だけでなく、いつでも思い出して口ずさむことができることを念頭において、初代校長の武山俊彦先生が、全校生徒、保護者から公募した詩の中から、詩句を選んで作詞されました。

その歌詞に、「巣立ちの歌」などで知られる岩河三郎先生が、曲をつけられました。

この校歌は、平成5年11月5日の校歌発表会で披露され、すばらしい「混声三部合唱」が小田の丘に響き渡りました。